

# 農業



令和6年8月号  
会誌 No. 1720

## 目次

### 巻頭言

野生動物とのあつれきをいかに回避するか?.....林 良博 3

### 論壇

直接支払制度の充実・拡大.....柴田 正貴 4

### 農業懇話会

農作業事故の現状と農作業安全対策をめぐる動向.....氣多 正 6

### 食を楽しむ

大地の一部 水の一部.....黒田未来雄 20

### 研究の最前線

最新の研究から見えてきたツキノワグマの姿

—出没を繰り返さないためにできることは?—.....小池 伸介 21

### 農業・農村の現場から

岩手県におけるツキノワグマ被害の現状と対策について.....山内 貴義 31

### 世界の農業は今

命がけの追い払い.....岩井 雪乃 37

—タンザニアのアフリカゾウ獣害対策—

### 私の経営と志

新潟県十日町市でホップ・水稻作経営.....山家 悠平 43

—伝統と革新をつなぐ農業経営—

## 農家の気持ち

肉牛農家&児童書作家として……………堀米 薫 45

## 東京農業大学収穫祭から

竹筋を用いた海水練りコンクリートの可能性  
……………地域環境科学部生産環境工学科社会基盤工学研究室 46

## 農政情報…………… 50

大日本農会だより…………… 51

編集部から…………… 51

大日本農会 令和6年度第3回農業懇話会のご案内…………… 52

会誌『農業』に関するアンケート

### 表紙写真説明：シリーズ日本農業遺産

#### 丹波篠山地域の黒大豆栽培（丹波篠山市）

丹波篠山地域は、篠山盆地と盆地を取り囲む約 400～800m級の山地で構成されており、加古川、武庫川および由良川の流域に位置しています。夏は蒸し暑くて冬は底冷えが厳しく、昼夜の気温差が大きい内陸性気候となっており、晩秋には盆地内において深い霧が発生します。この特有の気候条件により、古くから丹波茶・丹波栗・丹波黒大豆・丹波山の芋など良質な農産物を育んできました。

2021年2月19日に「丹波篠山の黒大豆栽培～ムラが支える優良種子と家族農業～」が、日本農業遺産として認定を受けました。

江戸時代から水不足のため稲作をしない「犠牲田」を集落で協力し合いながら設け、そこで黒大豆栽培が始まりました。水田の多くが加湿・重粘土な湿田で、これを乾田化することは技術的に困難でしたが、溝を掘り、畝を高くすることで黒大豆栽培を可能にしました。黒大豆栽培では連作障害が発生するため、2～3年で水田と畑地を入れ替える輪換システムを取り入れています。

明治時代には、豪農波部本次郎らによって在来種の中から優良な種子が選抜育種され、現在では採種ほ場を分散設置するなど持続的に優良な種子を生産しています。

水の少ない丹波篠山地域では、多くのため池が築造されたことで希少な両生類などが生息しています。また、粗朶（木の枝）や落ち葉を灰小屋で焼いて作る灰肥料が用いられるなど、農の営みの中で自然環境が守られています。

（写真および文：丹波篠山市農都創造部農都政策課 堀 直也）